

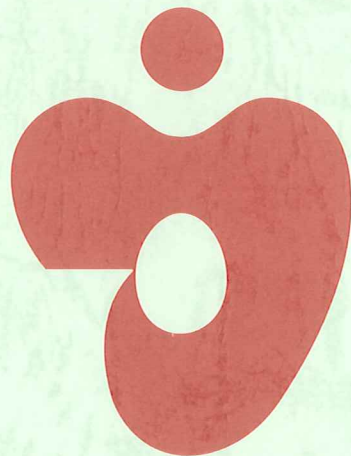
ISSN 1344-7505

九州看護福祉大学紀要

The Journal of Kyushu University of Nursing and Social Welfare

Vol. 4 No. 1

2002



九州看護福祉大学

Kyushu University of Nursing and Social Welfare

目 次

巻頭言 第四巻によせて	1
1. 論 文	
臨床心理学的な関係と行為の基本—「環境を聴く」概念を巡って—	熱田 一信…… 3
Thriving from a Riff: Identity of Jazz and Improvising Musicians	……Allan J. Sutherland…… 17
Critical Analysis of the Second Stage of Labour	……Kayo Sato, Michiru Asano, Motoko Yamabe, Yukiko Mine…… 51
「体感」活性化マザークラスの実践とその根拠・第1報	……佐藤 香代 浅野美智留 三根有紀子…… 59
「体感」活性化マザークラスの実践とその根拠・第2報	……浅野美智留 佐藤 香代 三根有紀子…… 69
Primarschulreform und Leistungsverständnis seit den 90er Jahren	……Nobuyuki Harada…… 77
中国観光業の発展状況とその制約要因	……藤原(王)文亮…… 89
作為と不作為——道義的判断の二類型構想に関する中間的考察——	……山本 務…… 103
2. 研究ノート	
Establish Environmental Organization in Thailand	……Manabu Ando…… 153
「自己決定」の向こう側へ	……衣笠 一茂…… 159
公衆衛生福祉局(GHQ/SCAP,PHW)の成立と占領政策(2)	……金 蘭九…… 167
脳活性化訓練(痴呆予防)事業における咀嚼の効用(第2報)	……久佐賀真理 向山直美、立道裕子 上村妙子…… 179
障害者の作業能力評価法に関する一考察(第2報)	……西口 宏美…… 185
正眼者を対象とした集団点字授業の方法	……中村 哲夫…… 195
中国文化における「聖人」の概念と意義	……藤原(王)文亮…… 201
逐語記録によるグループ・スーパービジョンに関する考察	……益満 孝一…… 211
日本における音楽療法に関する私論	……松本 典子…… 219
小児看護方法論演習における学生の静脈内持続点滴に使用する絆創膏選択基準の分析	……山邊素子 佐藤香代 山崎雅代…… 229
自閉症児における伝達のニュアンスを加える言語表現に関する分析	……李 玄 玉…… 235
3. 事例・実践調査研究	
学習障害児に対する指導の視点	……水間 宗幸 大石 健…… 241
要介護高齢者を在宅ケアする介護者の生活満足に関する研究	……官澤文彦 川西恭子 増田安代 生野繁子…… 249
4. 調査報告	
古代佛教文化地ガンダーラー地域の研究	……久我 篁子…… 257
有明地域における介護保険サービス利用に関する調査研究	……生野繁子 竹園辰巳…… 261
熊本県有明地区のバリアフリーに関する住民意識の傾向	……西島衛治 佐藤林正…… 269
大学生の食生活の実態と家族歴との関連性	……二宮 球美 生野 繁子 久芳美代子…… 275
5. 展望	
看護学教育における専門基礎教科の課題を探る	……山邊素子 佐藤香代…… 279
6. 海外報告	
中国高齢者の生活実態	……高 継芬…… 287
「国際ヘルバルト学会」(Internationale Herbart-Gesellschaft)設立についての報告	……田口 淳 牛田伸一 原田信之…… 295
業績リスト	305

巻頭言

— 「紀要」第四巻の発刊によせて—

1998年に開学した本学も「完成年次」を迎え、ここに第四巻を発刊するに至った。編集作業に携わって実感するのは、本学「紀要」の投稿論文数そのものが年を追って増加していることである。また中でも、第四巻では助教授以下の若手教員諸氏の投稿数が多くみられている。さらに、投稿形式や内容面に目を転じると、欧文論文も徐々に増えつつあり、本学の教員諸氏が国際的な視点をその研究視野に入れ出したことを感じる。また本学設立の経緯を踏まえ、今後の本学のあり方の一つを示唆する地域社会をテーマにした研究へも取り組みを見せ、看護学・社会福祉学教員相互間の共同研究も増加の一步を辿っていることが読み取れる。

周知の如く、本学は看護・社会福祉両学科一学部のスリムな小規模校である。そのような中であって、このように多くの専門の立場から多彩な投稿が今回もなされたことは、編集する立場の一人として喜ばしく感じている。

ところで、わが国はグローバル化時代の進展に伴い、国際的通用性を持った「質」の担保が求められている。また同時に、人々の健康生活ニーズや、それを守る保健・医療・福祉が統合化され、実のある体制づくりがますます重要になってきている。そのような中での本学教員諸氏の手になるそれぞれの作品が、一握りの担保になることを期待してやまない。

何処の機関でも同じと思うが、創設期や完成年次までは、適度な緊張による努力と研鑽が保てるものである。しかし学問する心、科学する心に完成はない。その意味では本学の紀要が完成年次に向けて充実してきた喜びと共に、その通過点を越えた後にこそ、本学紀要の量と質の担保の課題が新たに始まったと、編集委員の一人として感じる次第である。

2002年3月吉日

紀要編集委員会 委員長：田中 晴人

編集後記

巻頭言で述べたように、本学は「完成年次」を迎え第4巻を発刊に至った。

第1－4巻の発刊に際しご協力戴いた本学教員に対して深く感謝したい。特に今年度は完成年次発刊であるが、特にオリジナリティに富んだ論文が多く、相対的にレベルの向上も認められ委員として喜ばしいかぎりである。

しかしここに至って残念に思うのは1－4巻に至までに投稿がなかった方々のことである。すなわち本誌は学術誌でも専門誌でもないが、本誌は国会図書館にまで保管され、かつ各看護福祉系大学に行き渡っており、その公共性も広範囲に及んでいる。このような点から考えれば現在まで不投稿の方々には第5巻以降の投稿をぜひお願いしたい。これも本学の発展のためである。

本誌の高レベル化を目標にますます期待している。

2002年3月

紀要編集委員会一同

紀要編集委員（文責）

委員長	田中 晴人（看護学科）
委員	佐藤 香代（看護学科）
委員	衣笠 一茂（社会福祉学科）

九州看護福祉大学紀要 第4巻 第1号

The Journal of Kyushu University of Nursing and Social Welfare Vol.4 No.1

2002年3月

発行者 九州看護福祉大学

Kyushu University of Nursing and Social Welfare

〒865-0062

熊本県玉名市富尾888番地

888 Tomio, Tamana City, Kumamoto Pref.

Japan. Zip 865-0062

T E L 0968(75)1800

F A X 0968(75)1811

紀要編集委員代表 田中 晴人

印刷所 株式会社 ベストパッケージ

〒864-0025

熊本県荒尾市高浜字前1825-20

T E L 0968(68)7710

F A X 0968(68)7713
